

1 自己評価および外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600510		
法人名	医療法人社団睦会		
事業所名	グループホーム昭和館まどか(ユニットA)		
所在地	岐阜県笠松町円城寺947-1		
自己評価作成日	平成21年5月12日	評価結果市町村受理日	平成21年7月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170600510&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、グループホーム周辺には、複数の介護事業者が、運営されているため、利用者やご家族の、安心と満足のある暮らしを支えています。
ホームは、広い空間を持つ木造平屋3ユニットで構成されており、庭は、季節の花や木に囲まれています。
理念である【思いやりがかよう同居人生活】を実践するために、家庭的で楽しい雰囲気、人としての尊厳を守り、適切かつ安全な医療とケアを提供し、ご家族、利用者の希望によっては、看取りまで行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5年を経たこのホームは、庭の緑が居室やリビングからも眺められ、看護師である管理者と、熱意ある職員の理念に沿ったケアによって、利用者はゆったりとした生活を送っている。管理者は運営やケアの実施には常に改善意識を持っており、法人内のホームとしての位置を保ちつつ、利用者本位のサービスを提供している。春には、ホームで作った弁当を持って、重度の利用者も車椅子で参加し、職員も全員参加で花見を行っている。3つのユニットはそれぞれ独立しているが、行事の際は一緒に行うことにより利用者とは顔なじみでもあり、全職員は他ユニットであってもカバーしあって日々のケアに当たっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(ユニットA)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は【思いやりがかよう同居人生活】として全員で取り組んでいる。地域の一員として、ホームにいつでも来ていただけるよう努力している。	理念通りのケアを実施し、地域内での共生を目指し、できる限りの努力をしている。母体法人も「思いやり」を理念としており、職員は気持ちを一つにして日々のケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事に、地域の方を招待したり、散歩に出かけたときに、挨拶と会話でホームを理解していただく。地域のふれあいサロンに毎月1回参加している。	自治会などに加入はしていないが、熱意ある管理者の考えで、地域のいきいきサポーターやふれあい喫茶などに出かけ、地域に溶け込み、利用者は地域の一員としての位置を確保しつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のふれあいサロンに出かけたときに、認知症については、話す機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価後に、ご家族へアンケートを出しそれを基に運営推進会議で話し合いを持っている。	行政や民生委員、家族代表の参加により2~3ヶ月に1回の頻度で行っている。評価の内容を家族に手渡し、家族の意見を聞いている。今後は項目別にアンケートを作成する計画をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町職員に毎回、運営推進会議に参加していただくため、どんなことでも話やすく、相談出来る。	行政は毎回の運営推進会議に参加し、情報交換・意見交換を通し、その情報をホームの運営に活かす取り組みをしている。	地域密着型としてのグループホームの今後の在り方について行政と協働していけるよう保育所との交流、学校の福祉体験などに、行政への一層の働きかけを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で、取り組んでいて、権利擁護委員会が2ヶ月に1回開催されている。玄関の施錠は、しなくてもよい造になっている。	身体拘束と権利擁護については法人全体でも重要視しており、管理者以下職員はその意味を正しく理解する取り組みを常に話し合いながら行っている。玄関や庭に出るドアも開放されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、職員全員に周知している。最近では、虐待でないかをアンケート用紙に書き話し合いを持った。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての理解しているため相談または、必要と感じたときには、家族に話すようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行ない、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の入り口に意見、苦情箱を設置、いつでも記入して頂けるよう、用紙も準備してある。職員は、家族との会話の中で意見、不満などないか尋ね運営の改善に役立てている。第三者委員の連絡先を書面で配布している。	意見箱の設置もあるが、家族の意見や要望は、直接、管理者や職員に届くことが多い。それらは職員間でも共有され、日々のサービスに反映されている。日々の会話の中で拾い上げた利用者の希望も取り入れている。	家族会を活用し、ホーム側の想いや意見を表せる機会や場を設け、また、家族アンケートの実施などにより、家族の本音も表出しやすい良好な関係の構築に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、いつも職員の意見を聞くようにして、出来る限り運営に反映している。法人代表の理解もある。	職員同士の関係性がそのまま利用者へのケアに結び付くことを管理者は深く理解しており、気軽に意見を言える雰囲気作りを心がけ、内容によっては母体法人にホーム全体の意見として持っていくこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を出来るだけ受け入れ、勤務表に反映している。職員評価は、管理者が年3回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、研修情報は職員の目に届くところに掲示して、参加できるようにしている。希望があれば、参加できる。又管理者より必要な研修は、指示する場合もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者との交流する機会を持っている。職員は、研修時に交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期時は、できるだけ多く会話するようにしている。不安や、困っていることは、家族と相談しながら対応する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に時間をかけて話しを聞くようにしている。又、不安なことはすぐに対処できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内にある複数のサービスの事業者の意見も聞き、適切なサービスを支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを進んで参加できるような雰囲気作りをし、日々の生活の中から、信頼関係を得るようにして、本人の得意なことを教えてもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、毎月利用者の暮らしの情報を郵送している。気持ち、行動、状態などを知ってもらうことで、家族との共有をする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連絡を密に取り、馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努める。	家族は勿論のこと、利用者の同級生がホームを訪れることもある。友人や世話になった人に手紙を出したり、馴染みの美容院に出かけたりと、ホームで暮らしていても以前との関係が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席を配慮したり、会話を促したり、日常の手伝いの参加の中から思いやる関わりを持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に来て頂けるよう、退所時に話す。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報を得たり、本人の希望、意向の把握に努めるようし困難な場合は、管理者、職員と相談し希望。意向に沿えるように努力している。	日々の利用者との会話の中やできたこと、利用者のつづきなどをカルテに記入し、職員間で共有することによって、本人主体の暮らしが継続できるように努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族からの情報を基に、生活環境、これまでのサービス利用を把握して、利用者として生活するうえでのアセスメントで把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理表の利用や、カルテの記事で把握が出来るようにし個々に合わせた日課表に作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に、モニタリングを行ない、本人の現状にあったケアプランとなるよう見直しをしている。	月に1度の職員会議やユニット会議では、細かく話し合いを行い、職員からの意見も加え、その時その状態に合った介護計画の作成と見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践は個別の記録に記入すると共に、申し送りノートに記入し、情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が医療法人で、他のサービス事業所があり、いつでも相談でき、利用することが出来る。そのために家族の相談があっても対処できる。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小・中学生のボランティア、研修生の受け入れ、民生委員の方からは、地域の情報をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院なので、家族の方も安心して、適切な医療を受けている。	母体法人の医師が月に2回往診に訪れ、24時間365日体制で万全の体制を敷いている。歯科などは基本的に家族同行の受診であるが、緊急時や必要時は職員や管理者が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算にて日常の健康管理は出来ていて、相談はいつでも出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーを書くことで、情報を伝え、連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の事前確認書を基に、重度化、終末期と医師が判断された場合家族、利用者が、最期をグループホームで迎えたいと願う方に、身体的、精神的苦痛、苦悩を出来るだけ緩和し、日々の暮らしを営めるよう援助する。	医療が必要になった時、また、重度化した場合は、法人内の施設に移ることを契約時に説明し、事前に同意もっている。グループホームとしての在り方、職員配置、力量などを考慮した上で医師の指示を受け、看取りの限界についての明確な判断基準を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の応急手当や、対応の話し合いをしたり、緊急マニュアルを作成している。AEDと人工呼吸法の講習を受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	関連施設が近くにあり、消防、警察、近所の方との関わりを密にして、働きかけをしたり、利用者と共に避難訓練している。	運営規定の定めにある「基礎訓練」「利用者との総合訓練」など地域からの協力も得て、年に2回の訓練が実施されている。	さらには、初動体制や様々な想定で瞬間的に避難する場所の選定等、また、職員の災害に対する意識も含め、もしもに備えた体制作りを段階的に行う試みにも取り組まれたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの中で利用者の情報を共有し、話し合いを持っている。	管理者と職員はその人の尊厳を守り、個人の尊重に心がけ、利用者の望むペースに合った声かけを行って目立たず見守る支援がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、会話時、行動などにて判断し、思いや行動をくみ取り、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思を、確認しながら行っている。又、意思の確認が出来ない方は、出来ることを職員がその人にあわせた過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の応じて快適な身なりをしていただくよう支援している。又、希望に応じて選ぶ場合もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を聞いたり、食べたいものがあれば取り入れたりして、準備を手伝っていただいたり、後かたづけなどの出来ることをして頂いている。	家庭菜園で採れた野菜の下準備やできることを無理のない範囲で利用者にお願ひし、職員は共にテーブルにつき介助しながら和気あいあいとした食事風景であった。献立は、できる限り利用者の希望に添ったメニューとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態、量は、その人にあったものにし、栄養バランスは法人内の栄養士に、確認する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人にあった口腔ケアを実施している。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の力に応じて出来る限りトイレでの排泄を支援し、排泄パターンの確認をしてトイレに誘導している。	排泄は、できるだけ自立できるよう、利用者毎の排泄パターンを細かく記録した上で把握し、さりげなく誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた便秘予防をしている。水分量、根菜を多くしたり、内服の調整などで支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で入浴時間は決めているが、介助時を利用者に合わせた介助をしている。	週3回日中の入浴支援が基本であるが、本人の希望や体がかゆい時などは、毎日の入浴も可能である。入浴拒否の利用者には清拭を行い、重度の利用者には職員が安全安心に配慮し、手で支えて支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に沿えるよう心がけている。夜間は、眠剤を使用しないで、お茶を飲んでいただいたり会話などして職員と一緒に過ごし休んでもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者、看護師が、把握しており、異常があれば医師に報告している。誤薬マニュアルに沿って服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じて手伝いなどしていただくようにしている。生活歴から、趣味など知ることが出来るが、出来る事が少なくなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩には時々出かけることが出来るが、普段いけないところには、家族の協力が出かけることもあります。	ホームの中庭は回廊式で、散歩や外気浴もできる。重度化も進み車椅子の利用者が多いが、弁当を持って年に1回、花見に出かけている。今後は、家族の協力も得て、墓参り等の希望の外出もできるよう計画している。	

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して、管理できる方は本人が管理して出来ない方は職員が管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に合わせて手紙を出したり、代筆したり、一緒に郵便局に出しに行く援助している。電話は、希望に応じて、援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、行事の写真、飾りなどで季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるようにしている。	昭和の時代を思わせる落ち着いた造りであり、3ユニットの周囲が歩けるよう歩道もできている。リビングや玄関は、落ち着いた雰囲気です。ゆったりと過ごせるよう、季節の花などがさりげなく飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に、畳のスペースもあり、ひとりになる工夫はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談しながら、馴染みの物を持ってきて頂くようにしている。	家族から使い慣れた家具などを持ち込んでもらえるよう配慮している。利用者が作った手芸品などが居室の壁やタンスの上に飾られ、入居前の生活の延長であることが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の整備をし、個々にあった支援をし、居室には目印があり分かりやすくしている。		

1 自己評価および外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600510		
法人名	医療法人社団睦会		
事業所名	グループホーム昭和館まどか(ユニットB)		
所在地	岐阜県笠松町円城寺947-1		
自己評価作成日	平成21年5月12日	評価結果市町村受理日	平成21年7月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170600510&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、グループホーム周辺には、複数の介護事業者が、運営されているため、利用者やご家族の、安心と満足のある暮らしを支えています。
ホームは、広い空間を持つ木造平屋3ユニットで構成されており、庭は、季節の花や木に囲まれています。
理念である【思いやりがかよう同居人生活】を実践するために、家庭的で楽しい雰囲気、人としての尊厳を守り、適切かつ安全な医療とケアを提供し、ご家族、利用者の希望によっては、看取りまで行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5年を経たこのホームは、庭の緑が居室やリビングからも眺められ、看護師である管理者と、熱意ある職員の理念に沿ったケアによって、利用者はゆったりとした生活を送っている。管理者は運営やケアの実施には常に改善意識を持っており、法人内のホームとしての位置を保ちつつ、利用者本位のサービスを提供している。春には、ホームで作った弁当を持って、重度の利用者も車椅子で参加し、職員も全員参加で花見を行っている。3つのユニットはそれぞれ独立しているが、行事の際は一緒に行うことにより利用者とは顔なじみでもあり、全職員は他ユニットであってもカバーしあって日々のケアに当たっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(ユニットB)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は【思いやりがかよう同居人生活】として全員で取り組んでいる。地域の一員として、ホームにいつでも来ていただけるよう努力している。	理念通りのケアを実施し、地域内での共生を目指し、できる限りの努力をしている。母体法人も「思いやり」を理念としており、職員は気持ちを一つにして日々のケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事に、地域の方を招待したり、散歩に出かけたときに、挨拶と会話でホームを理解していただく。地域のふれあいサロンに毎月1回参加している。	自治会などに加入はしていないが、熱意ある管理者の考えで、地域のいきいきサポーターやふれあい喫茶などに出かけ、地域に溶け込み、利用者は地域の一員としての位置を確保しつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のふれあいサロンに出かけたときに、認知症については、話す機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価後に、ご家族へアンケートを出しそれを基に運営推進会議で話し合いを持っている。	行政や民生委員、家族代表の参加により2~3ヶ月に1回の頻度で行っている。評価の内容を家族に手渡し、家族の意見を聞いている。今後は項目別にアンケートを作成する計画をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町職員に毎回、運営推進会議に参加していただくため、どんなことでも話やすく、相談出来る。	行政は毎回の運営推進会議に参加し、情報交換・意見交換を通し、その情報をホームの運営に活かす取り組みをしている。	地域密着型としてのグループホームの今後の在り方について行政と協働していけるよう保育所との交流、学校の福祉体験などに、行政への一層の働きかけを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で、取り組んでいて、権利擁護委員会が2ヶ月に1回開催されている。玄関の施錠は、しなくてもよい造になっている。	身体拘束と権利擁護については法人全体でも重要視しており、管理者以下職員はその意味を正しく理解する取り組みを常に話し合いながら行っている。玄関や庭に出るドアも開放されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、職員全員に周知している。最近では、虐待でないかをアンケート用紙に書き話し合いを持った。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての理解しているため相談または、必要と感じたときには、家族に話すようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行ない、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の入り口に意見、苦情箱を設置、いつでも記入して頂けるよう、用紙も準備してある。職員は、家族との会話の中で意見、不満などないか尋ね運営の改善に役立てている。第三者委員の連絡先を書面で配布している。	意見箱の設置もあるが、家族の意見や要望は、直接、管理者や職員に届くことが多い。それらは職員間でも共有され、日々のサービスに反映されている。日々の会話の中で拾い上げた利用者の希望も取り入れている。	家族会を活用し、ホーム側の想いや意見を表せる機会や場を設け、また、家族アンケートの実施などにより、家族の本音も表出しやすい良好な関係の構築に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、いつも職員の意見を聞くようにして、出来る限り運営に反映している。法人代表の理解もある。	職員同士の関係性がそのまま利用者へのケアに結び付くことを管理者は深く理解しており、気軽に意見を言える雰囲気作りを心がけ、内容によっては母体法人にホーム全体の意見として持っていくこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を出来るだけ受け入れ、勤務表に反映している。職員評価は、管理者が年3回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、研修情報は職員の目に届くところに掲示して、参加できるようにしている。希望があれば、参加できる。又管理者より必要な研修は、指示する場合もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者との交流する機会を持っている。職員は、研修時に交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期時は、できるだけ多く会話するようにしている。不安や、困っていることは、家族と相談しながら対応する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に時間をかけて話しを聞くようにしている。又、不安なことはすぐに対処できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内にある複数のサービスの事業者の意見も聞き、適切なサービスを支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを進んで参加できるような雰囲気作りをし、日々の生活の中から、信頼関係を得るようにして、本人の得意なことを教えてもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、毎月利用者の暮らしの情報を郵送している。気持ち、行動、状態などを知ってもらうことで、家族との共有をする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連絡を密に取り、馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努める。	家族は勿論のこと、利用者の同級生がホームを訪れることもある。友人や世話になった人に手紙を出したり、馴染みの美容院に出かけたりと、ホームで暮らしていても以前の関係が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席を配慮したり、会話を促したり、日常の手伝いの参加の中から思いやる関わりを持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に来て頂けるよう、退所時に話す。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報を得たり、本人の希望、意向の把握に努めるようし困難な場合は、管理者、職員と相談し希望。意向に沿えるように努力している。	日々の利用者との会話の中やできたこと、利用者のつづきなどをカルテに記入し、職員間で共有することによって、本人主体の暮らしが継続できるように努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族からの情報を基に、生活環境、これまでのサービス利用を把握して、利用者として生活するうえでのアセスメントで把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理表の利用や、カルテの記事で把握が出来るようにし個々に合わせた日課表に作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に、モニタリングを行ない、本人の現状にあったケアプランとなるよう見直しをしている。	月に1度の職員会議やユニット会議では、細かく話し合いを行い、職員からの意見も加え、その時その状態に合った介護計画の作成と見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践は個別の記録に記入すると共に、申し送りノートに記入し、情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が医療法人で、他のサービス事業所があり、いつでも相談でき、利用することが出来る。そのために家族の相談があっても対処できる。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小・中学生のボランティア、研修生の受け入れ、民生委員の方からは、地域の情報をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院なので、家族の方も安心して、適切な医療を受けている。	母体法人の医師が月に2回往診に訪れ、24時間365日体制で万全の体制を敷いている。歯科などは基本的に家族同行の受診であるが、緊急時や必要時は職員や管理者が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算にて日常の健康管理は出来ていて、相談はいつでも出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーを書くことで、情報を伝え、連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の事前確認書を基に、重度化、終末期と医師が判断された場合家族、利用者が、最期をグループホームで迎えたいと願う方に、身体的、精神的苦痛、苦悩を出来るだけ緩和し、日々の暮らしを営めるよう援助する。	医療が必要になった時、また、重度化した場合は、法人内の施設に移ることを契約時に説明し、事前に同意もっている。グループホームとしての在り方、職員配置、力量などを考慮した上で医師の指示を受け、看取りの限界についての明確な判断基準を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の応急手当や、対応の話し合いをしたり、緊急マニュアルを作成している。AEDと人工呼吸法の講習を受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	関連施設が近くにあり、消防、警察、近所の方との関わりを密にして、働きかけをしたり、利用者と共に避難訓練している。	運営規定の定めにある「基礎訓練」「利用者との総合訓練」など地域からの協力も得て、年に2回の訓練が実施されている。	さらには、初動体制や様々な想定で瞬間的に避難する場所の選定等、また、職員の災害に対する意識も含め、もしもに備えた体制作りを段階的に行う試みにも取り組まれたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの中で利用者の情報を共有し、話し合いを持っている。	管理者と職員はその人の尊厳を守り、個人の尊重に心がけ、利用者の望むペースに合った声かけを行って目立たず見守る支援がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、会話時、行動などにて判断し、思いや行動をくみ取り、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思を、確認しながら行っている。又、意思の確認が出来ない方は、出来ることを職員がその人にあわせた過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の応じて快適な身なりをしていただくよう支援している。又、希望に応じて選ぶ場合もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を聞いたり、食べたいものがあれば取り入れたりして、準備を手伝っていただいたり、後かたづけなどの出来ることをして頂いている。	家庭菜園で採れた野菜の下準備やできることを無理のない範囲で利用者にお願ひし、職員は共にテーブルにつき介助しながら和気あいあいとした食事風景であった。献立は、できる限り利用者の希望に添ったメニューとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態、量は、その人にあったものにし、栄養バランスは法人内の栄養士に、確認する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人にあった口腔ケアを実施している。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の力に応じて出来る限りトイレでの排泄を支援し、排泄パターンの確認をしてトイレに誘導している。	排泄は、できるだけ自立できるよう、利用者毎の排泄パターンを細かく記録した上で把握し、さりげなく誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた便秘予防をしている。水分量、根菜を多くしたり、内服の調整などで支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で入浴時間は決めているが、介助時を利用者に合わせた介助をしている。	週3回日中の入浴支援が基本であるが、本人の希望や体がかゆい時などは、毎日の入浴も可能である。入浴拒否の利用者には清拭を行い、重度の利用者には職員が安全安心に配慮し、手で支えて支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に沿えるよう心がけている。夜間は、眠剤を使用しないで、お茶を飲んでいただいたり会話などして職員と一緒に過ごし休んでもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者、看護師が、把握しており、異常があれば医師に報告している。誤薬マニュアルに沿って服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じて手伝いなどしていただくようにしている。生活歴から、趣味など知ることが出来るが、出来る事が少なくなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩には時々出かけることが出来るが、普段いけないところには、家族の協力が出かけることもあります。	ホームの中庭は回廊式で、散歩や外気浴もできる。重度化も進み車椅子の利用者が多いが、弁当を持って年に1回、花見に出かけている。今後は、家族の協力も得て、墓参り等の希望の外出もできるよう計画している。	

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して、管理できる方は本人が管理して出来ない方は職員が管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に合わせて手紙を出したり、代筆したり、一緒に郵便局に出しに行く援助している。電話は、希望に応じて、援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、行事の写真、飾りなどで季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるようにしている。	昭和の時代を思わせる落ち着いた造りであり、3ユニットの周囲が歩けるよう歩道もできている。リビングや玄関は、落ち着いた雰囲気です。ゆったりと過ごせるよう、季節の花などがさりげなく飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に、畳のスペースもあり、ひとりになる工夫はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談しながら、馴染みの物を持ってきて頂くようにしている。	家族から使い慣れた家具などを持ち込んでもらえるよう配慮している。利用者が作った手芸品などが居室の壁やタンスの上に飾られ、入居前の生活の延長であることが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の整備をし、個々にあった支援をし、居室には目印があり分かりやすくしている。		

1 自己評価および外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600510		
法人名	医療法人社団睦会		
事業所名	グループホーム昭和館まどか(ユニットC)		
所在地	岐阜県笠松町円城寺947-1		
自己評価作成日	平成21年5月12日	評価結果市町村受理日	平成21年7月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170600510&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、グループホーム周辺には、複数の介護事業者が、運営されているため、利用者やご家族の、安心と満足のある暮らしを支えています。
ホームは、広い空間を持つ木造平屋3ユニットで構成されており、庭は、季節の花や木に囲まれています。
理念である【思いやりがかよう同居人生活】を実践するために、家庭的で楽しい雰囲気、人としての尊厳を守り、適切かつ安全な医療とケアを提供し、ご家族、利用者の希望によっては、看取りまで行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5年を経たこのホームは、庭の緑が居室やリビングからも眺められ、看護師である管理者と、熱意ある職員の理念に沿ったケアによって、利用者はゆったりとした生活を送っている。管理者は運営やケアの実施には常に改善意識を持っており、法人内のホームとしての位置を保ちつつ、利用者本位のサービスを提供している。春には、ホームで作った弁当を持って、重度の利用者も車椅子で参加し、職員も全員参加で花見を行っている。3つのユニットはそれぞれ独立しているが、行事の際は一緒に行うことにより利用者とは顔なじみでもあり、全職員は他ユニットであってもカバーしあって日々のケアに当たっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(ユニットC)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は【思いやりがかよう同居人生活】として全員で取り組んでいる。地域の一員として、ホームにいつでも来ていただけるよう努力している。	理念通りのケアを実施し、地域内での共生を目指し、できる限りの努力をしている。母体法人も「思いやり」を理念としており、職員は気持ちを一つにして日々のケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事に、地域の方を招待したり、散歩に出かけたときに、挨拶と会話でホームを理解していただく。地域のふれあいサロンに毎月1回参加している。	自治会などに加入はしていないが、熱意ある管理者の考えで、地域のいきいきサポーターやふれあい喫茶などに出かけ、地域に溶け込み、利用者は地域の一員としての位置を確保しつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のふれあいサロンに出かけたときに、認知症については、話す機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価後に、ご家族へアンケートを出しそれを基に運営推進会議で話し合いを持っている。	行政や民生委員、家族代表の参加により2~3ヶ月に1回の頻度で行っている。評価の内容を家族に手渡し、家族の意見を聞いている。今後は項目別にアンケートを作成する計画をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町職員に毎回、運営推進会議に参加していただくため、どんなことでも話やすく、相談出来る。	行政は毎回の運営推進会議に参加し、情報交換・意見交換を通し、その情報をホームの運営に活かす取り組みをしている。	地域密着型としてのグループホームの今後の在り方について行政と協働していけるよう保育所との交流、学校の福祉体験などに、行政への一層の働きかけを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で、取り組んでいて、権利擁護委員会が2ヶ月に1回開催されている。玄関の施錠は、しなくてもよい造になっている。	身体拘束と権利擁護については法人全体でも重要視しており、管理者以下職員はその意味を正しく理解する取り組みを常に話し合いながら行っている。玄関や庭に出るドアも開放されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、職員全員に周知している。最近では、虐待でないかをアンケート用紙に書き話し合いを持った。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての理解しているため相談または、必要と感じたときには、家族に話すようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行ない、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の入り口に意見、苦情箱を設置、いつでも記入して頂けるよう、用紙も準備してある。職員は、家族との会話の中で意見、不満などないか尋ね運営の改善に役立てている。第三者委員の連絡先を書面で配布している。	意見箱の設置もあるが、家族の意見や要望は、直接、管理者や職員に届くことが多い。それらは職員間でも共有され、日々のサービスに反映されている。日々の会話の中で拾い上げた利用者の希望も取り入れている。	家族会を活用し、ホーム側の想いや意見を表せる機会や場を設け、また、家族アンケートの実施などにより、家族の本音も表出しやすい良好な関係の構築に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、いつも職員の意見を聞くようにして、出来る限り運営に反映している。法人代表の理解もある。	職員同士の関係性がそのまま利用者へのケアに結び付くことを管理者は深く理解しており、気軽に意見を言える雰囲気作りを心がけ、内容によっては母体法人にホーム全体の意見として持っていくこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を出来るだけ受け入れ、勤務表に反映している。職員評価は、管理者が年3回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、研修情報は職員の目に届くところに掲示して、参加できるようにしている。希望があれば、参加できる。又管理者より必要な研修は、指示する場合もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者との交流する機会を持っている。職員は、研修時に交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期時は、できるだけ多く会話するようにしている。不安や、困っていることは、家族と相談しながら対応する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に時間をかけて話しを聞くようにしている。又、不安なことはすぐに対処できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内にある複数のサービスの事業者の意見も聞き、適切なサービスを支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを進んで参加できるような雰囲気作りをし、日々の生活の中から、信頼関係を得るようにして、本人の得意なことを教えてもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、毎月利用者の暮らしの情報を郵送している。気持ち、行動、状態などを知ってもらうことで、家族との共有をする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連絡を密に取り、馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努める。	家族は勿論のこと、利用者の同級生がホームを訪れることもある。友人や世話になった人に手紙を出したり、馴染みの美容院に出かけたりと、ホームで暮らしていても以前の関係が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席を配慮したり、会話を促したり、日常の手伝いの参加の中から思いやる関わりを持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に来て頂けるよう、退所時に話す。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報を得たり、本人の希望、意向の把握に努めるようし困難な場合は、管理者、職員と相談し希望。意向に沿えるように努力している。	日々の利用者との会話の中やできたこと、利用者のつづきなどをカルテに記入し、職員間で共有することによって、本人主体の暮らしが継続できるように努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族からの情報を基に、生活環境、これまでのサービス利用を把握して、利用者として生活するうえでのアセスメントで把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理表の利用や、カルテの記事で把握が出来るようにし個々に合わせた日課表に作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に、モニタリングを行ない、本人の現状にあったケアプランとなるよう見直しをしている。	月に1度の職員会議やユニット会議では、細かく話し合いを行い、職員からの意見も加え、その時その状態に合った介護計画の作成と見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践は個別の記録に記入すると共に、申し送りノートに記入し、情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が医療法人で、他のサービス事業所があり、いつでも相談でき、利用することが出来る。そのために家族の相談があっても対処できる。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小・中学生のボランティア、研修生の受け入れ、民生委員の方からは、地域の情報をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院なので、家族の方も安心して、適切な医療を受けている。	母体法人の医師が月に2回往診に訪れ、24時間365日体制で万全の体制を敷いている。歯科などは基本的に家族同行の受診であるが、緊急時や必要時は職員や管理者が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算にて日常の健康管理は出来ていて、相談はいつでも出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーを書くことで、情報を伝え、連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の事前確認書を基に、重度化、終末期と医師が判断された場合家族、利用者が、最期をグループホームで迎えたいと願う方に、身体的、精神的苦痛、苦悩を出来るだけ緩和し、日々の暮らしを営めるよう援助する。	医療が必要になった時、また、重度化した場合は、法人内の施設に移ることを契約時に説明し、事前に同意もっている。グループホームとしての在り方、職員配置、力量などを考慮した上で医師の指示を受け、看取りの限界についての明確な判断基準を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の応急手当や、対応の話し合いをしたり、緊急マニュアルを作成している。AEDと人工呼吸法の講習を受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	関連施設が近くにあり、消防、警察、近所の方との関わりを密にして、働きかけをしたり、利用者と共に避難訓練している。	運営規定の定めにある「基礎訓練」「利用者との総合訓練」など地域からの協力も得て、年に2回の訓練が実施されている。	さらには、初動体制や様々な想定で瞬間的に避難する場所の選定等、また、職員の災害に対する意識も含め、もしもに備えた体制作りを段階的に行う試みにも取り組まれたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの中で利用者の情報を共有し、話し合いを持っている。	管理者と職員はその人の尊厳を守り、個人の尊重に心がけ、利用者の望むペースに合った声かけを行って目立たず見守る支援がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、会話時、行動などにて判断し、思いや行動をくみ取り、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思を、確認しながら行っている。又、意思の確認が出来ない方は、出来ることを職員がその人にあわせた過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の応じて快適な身なりをしていただくよう支援している。又、希望に応じて選ぶ場合もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を聞いたり、食べたいものがあれば取り入れたりして、準備を手伝っていただいたり、後かたづけなどの出来ることをして頂いている。	家庭菜園で採れた野菜の下準備やできることを無理のない範囲で利用者にお願ひし、職員は共にテーブルにつき介助しながら和気あいあいとした食事風景であった。献立は、できる限り利用者の希望に添ったメニューとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態、量は、その人にあったものにし、栄養バランスは法人内の栄養士に、確認する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人にあった口腔ケアを実施している。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の力に応じて出来る限りトイレでの排泄を支援し、排泄パターンの確認をしてトイレに誘導している。	排泄は、できるだけ自立できるよう、利用者毎の排泄パターンを細かく記録した上で把握し、さりげなく誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた便秘予防をしている。水分量、根菜を多くしたり、内服の調整などで支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で入浴時間は決めているが、介助時を利用者に合わせた介助をしている。	週3回日中の入浴支援が基本であるが、本人の希望や体がかゆい時などは、毎日の入浴も可能である。入浴拒否の利用者には清拭を行い、重度の利用者には職員が安全安心に配慮し、手で支えて支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に沿えるよう心がけている。夜間は、眠剤を使用しないで、お茶を飲んでいただいたり会話などして職員と一緒に過ごし休んでもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者、看護師が、把握しており、異常があれば医師に報告している。誤薬マニュアルに沿って服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じて手伝いなどしていただくようにしている。生活歴から、趣味など知ることが出来るが、出来る事が少なくなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩には時々出かけることが出来るが、普段いけないところには、家族の協力が出かけることもあります。	ホームの中庭は回廊式で、散歩や外気浴もできる。重度化も進み車椅子の利用者が多いが、弁当を持って年に1回、花見に出かけている。今後は、家族の協力も得て、墓参り等の希望の外出もできるよう計画している。	

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して、管理できる方は本人が管理して出来ない方は職員が管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に合わせて手紙を出したり、代筆したり、一緒に郵便局に出しに行く援助している。電話は、希望に応じて、援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、行事の写真、飾りなどで季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるようにしている。	昭和の時代を思わせる落ち着いた造りであり、3ユニットの周囲が歩けるよう歩道もできている。リビングや玄関は、落ち着いた雰囲気です。ゆったりと過ごせるよう、季節の花などがさりげなく飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に、畳のスペースもあり、ひとりになる工夫はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談しながら、馴染みの物を持ってきて頂くようにしている。	家族から使い慣れた家具などを持ち込んでもらえるよう配慮している。利用者が作った手芸品などが居室の壁やタンスの上に飾られ、入居前の生活の延長であることが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の整備をし、個々にあった支援をし、居室には目印があり分かりやすくしている。		